昭島礼拝 2020/8/23

聖書：ヨハネ 17:1-5
主題：人に対するイエス様の愛
賛美：

みなさん、おはようございます。2020 年は新型コロナウイルスの影響で大変な年となりました。このような大変な中なのですが、東京フリー・メソジスト教団も代議員総会の中でかなり大掛かりなことをしようと話しあいました。それは教団の教憲教規を制定するという作業です。教憲教規とは教会における憲法です。決まりの中でも最も重要なものです。私もびっくりしたのですが、東京フリー・メソジスト教団には現在、教憲教規が無いのです。無ければいけないという事ではないのですが、この教団に属している私たちが、何を求めて集まっているのか、曖昧になってしまう可能性があるという事です。私たちは聖書が教えている真の神様を信じています。また聖書で神様が与えると約束して下さっているきよめ、聖化を追求しています。またこの神様の福音、グッドニュースをまだ知らない人に宣べ伝えていきます。とりわけ社会的弱者と呼ばれる人たちに手を差し伸べていきます。そして教会のかしらはキリストであり、神様は教会を正しく導くために、牧師のみならず信じる者全員に聖霊を与えて下さっています。ですから何事もみんなで話し合って教会の運営をしていきますというような基本的な教会の在り方が教憲教規には記されるはずなんですが、それがまだ無いという事です。しかし何もないのではなく、フリー・メソジストと名乗っているからには、フリー・メソジストと呼ばれる教会の伝統を受け継いでいます。フリー・メソジストの伝統的な教憲教規を見直して、現在の東京フリー・メソジストに合った教憲教規ができないかと模索しています。

前置きが長くなったのですが、どうしてこんな話をしているかというと、今日、8 月 23 日はアメリカでフリーメソジストが誕生した日だからです。記録によれば 1860 年 8 月 23 日にアメリカの小さな町のリンゴ畑でフリーメソジストは始まりました。今日はフリーメソジストの歴史も少し紹介しつつ、神様の福音を信じ、受け入れ、歩むことについて考えたいと思います。

今日はヨハネの福音書 17 章を開いて頂きました。ヨハネの福音書 17 章は、13～17 章に渡って続く最後の晩餐の記事の中の一部です。十字架を目前にしたイエス様が弟子たちのために祈っている、それがヨハネ 17 章になります。17:1 でイエス様が仰っている「時が来ました」というのは、イエス様が十字架に架かり、すべての人のために贖いのわざをなす時が来たという事です。そしてそれは同時に、肉体的には弟子たちからイエス様が引き離される時が来たということでもあります。この後、イエス様によって選ばれた弟子たちはイエス様の成し遂げて下さった福音を、世界中に宣べ伝えていくことになります。しかしそれは反対者も多い険しい道のりです。そんな弟子たちのためにイエス様はお祈りをしています。

17:2 ではイエス様が「あなたは子に、すべての人を支配する権威を下さいました。それは、あなたが下さったすべての人に、子が永遠のいのちを与えるためです。」と仰っています。イエス様がすべての人を支配するという言い方をされています。ちょっと不自由になるんじゃないかという響きにも聞こえますが、そんなことはありません。イエス様の御手の内に置かれることほど、私たちにとって幸いなことはありません。なぜならイエス様こそ私たちを深い愛によって愛して下さるお方だからです。誰よりも、何よりも私たちを深く愛しておられます。だからこそ、イエス様のご支配の内にある者に、イエス様は永遠のいのちを与えると仰っています。その永遠のいのちは、これから起こるイエス様の贖いの十字架のわざによって成し遂げられます。私たちの罪が十字架によって処罰され、私たちの魂が神様の物として贖われるのです。罪から来る報酬は

死です。罪は私たちをいのちから引き離します。しかしイエス様が私たちの代わりに十字架に架かって死んで下さったことにより、私たちは罪赦され、死から解放され、永遠のいのちに至るのです。だれも好き好んで十字架にはかかりません。イエス様も十字架で死ぬことが好きな訳ではありません。私たちを愛しているがゆえに、十字架に架かって下さるのです。

このイエス様の救いを知り、イエス様というお方を知り、イエス様に愛されていることを知り、これからはイエス様と共に過ごしていくということ、それこそが福音です。弟子たちはこれからこの福音をもって世界中に宣教に行きます。世に出て行きます。ただ世の中にはイエス様の教えに反対するものも多くいます。また同じイエス様を信じる教会ではありつつも、イエス様の教えを違うように解釈したり、いつの間にかイエス様以外のものに熱心になったりしてしまうこともあります。そうして、真にイエス様を追い求める人と対立してしまうこともあります。悲しい事です。イエス様は弟子たちを世に遣わすのは、例えるならオオカミの群れの中に送り出すようなものだと仰いました。だから天の父なる神様が守って下さるようにとお祈りをして下さっているのです。

同じイエス様を信じる教会でも、対立してしまう事があると言いました。それはフリーメソジストの始まりの時でも同じでした。フリーメソジスト教会は、母体であるアメリカのメソジスト監督教会から除名された人たちが集まってできた教会なんです。今はアメリカのメソジスト監督教会もいろいろな歴史を経て、合同メソジスト教会と名前も変わっています。1860 年にフリーメソジスト教会が誕生したと話しましたが、当時のメソジスト監督教会は霊的にも衰退してしまっていた時期でした。様々な問題を抱えていたのですが、今後、教団機関紙の牧のひつじで詳しく学びがなされていきますので、楽しみにしてください。1855 年頃から当時の教会を問題に感じていた B. T. ロバーツという牧師が、もう一度聖書に立ち返ろう。聖書が教えているきよめを追求し抵抗という事を訴えます。そして当時メソジスト監督教会で問題と感じていたいくつかのことについても議論します。有料座席のこと、秘密結社のこと、教会が社交場のようになっていたこと、いろいろあるのですが、今日は奴隷制のことだけを取り上げたいと思います。教会には B. T. ロバーツに賛同する人の少しいたのですが、多くの人は B. T. ロバーツと賛同する人たちを教会を分裂させようとしているとみなし、メソジスト監督教会から除名してしまいます。その後、B. T. ロバーツを含めた 60 人の会員によって新しくフリーメソジスト教会が始まりました。1860 年 8 月 23 日、アメリカのニューヨーク州ナイアガラのペキンという町のリンゴ畑から始まったのです。フリーメソジストのフリーという言葉の意味は、奴隷制からのフリーという意味も込められているのです。

1860 年代と言えば、アメリカはリンカーン大統領が登場し、奴隷解放を掲げる南北戦争が起こった時です。そのような時期、教会も奴隷制度を巡って大きな時代の波に飲まれていました。社会全体が奴隷を持つことは悪い事ではないとしていた時代です。当然、教会にも奴隷を雇っている人、奴隷の立場の人、いろいろな人が来ます。社会的にも奴隷制度について議論されていました。B. T. ロバーツはそのような中で、教会として奴隷制度には反対している声明を出すべきではないかと考えました。フリーメソジストの教憲教規の序文にはこのような文言があります。今年 5 月に皆様にお配りした教憲教規の草案の一部ですが、これはまだ草案ですので、もしかしたら文言が変わるかもしれません。「フリー・メソジスト教会は、この世には人々の品性を低下させ、善を踏み躙にじり、人間と制度を破滅に導くような、悪魔的力が存在することを知っている。教会は、非人格化の進む時代の中で、人格としての個人の意義を回復することによって、人々を助けようとする。フリー・メソジスト教会は、神にかたどって造られた個人の尊厳を損なうような法律・人々・制度を、たとえそれがいかなるものであろうとも公然と非難する。私たちは、個人として、また地域教会、

年会および教団として、あらゆる機会をとらえて、この世で、癒やしと救いに役立つような奉仕のために、自らを献げる。」神様は人を造られた時、ある人を主人に、ある人を奴隷に造ったわけではありません。主人も、奴隷も人間が定めた制度です。ですから神様の救いに関係ないのです。神様はすべての人を愛し、一人一人の人格を尊重されています。そして神様の救いを平等にお与えになります。神様が愛しておられる人なのだから、私たちもすべての人を兄弟姉妹として敬い、愛し合い、助け合うべきです。フリーメソジスト教会は奴隷制度が聖書的ではない。むしろ神様が愛されている人の人格を損なう危険性のあるものだと訴えます。

この奴隷制度への反対が、社会的弱者への関心にもつながっていきます。当時のアメリカにいた奴隷以外にも、社会的に弱い立場に置かれている人、貧しい人へ愛の手を差し伸べていくことに繋がります。どんな立場の人であっても、イエス様が愛し、十字架にまでかかって救いを与えて下さるほど愛して下さっている方々に福音を伝え、愛を行っていくことを目指します。

今日は 8 月 23 日という事で、フリーメソジストの最初の頃のお話を見て、改めて当時の人々の思いを知る事ができました。歴史を通して当時の人々の思いを知る事ができますね。もちろんそれは神様の御心にかなっているかどうかよくよく調べる必要があります。確かに神様はフリーメソジスト教会を導いて、奴隷解放への思いを与え、また社会的弱者への関心を呼び起こしてくださいました。私たちも神様に教えられつつ、神様の愛に生きる者とさせて頂きましょう。そうすれば自然とフリーメソジストの伝統、そしてキリスト教会の伝統に則ることになります。